

(日置郡伊集院町大字郡字山ノ脇)

位置と環境

本遺跡は、町の中心部から北東に約3km離れた、シラス崖下部から神ノ川河岸へ緩やかに下る標高約90mの小平野内に位置する。本遺跡周辺には、西原遺跡、石坂遺跡、梅落遺跡、諏訪免遺跡等が点在する。

調査の経緯

本遺跡の調査は、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴い、県教育委員会が日本鉄道建設公団九州新幹線建設局から委託を受けて、平成11年(1999)から平成12年にかけて実施した。

遺構と遺物

調査の結果、縄文時代、古墳時代、中世の複合遺跡で遺構や遺物が発見された。

縄文時代の遺構には、早期の集石1基や前期末～中期初頭と考えられる集石3基を検出し、それらの遺構に伴う土器や石器も出土した(写真1)。

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡1軒を検出し、周辺で成川式土器片が小範囲で出土した。

中世の遺構には、掘立柱建物跡、溝跡や農具埋納遺構など数多くを検出した。遺物は、土師器や中国南部産と考えられる磁器、滑石製石鍋の再利用品などが出土した。

掘立柱建物跡は10棟以上を数え、中でも2間×5間を上屋として四面ないし三面の庇を有する建物跡は、柱穴が直径50cm、深さ1m近くあり、規模から在地豪族の居館跡の可能性が高い(写真3)。

また、農具埋納土坑は、鉄製鋤先、播鉢、古銭、



第1図 山ノ脇遺跡の位置

磁器が直径約70cmの土坑内に一括して埋納された状態で発見された。農具の埋納遺構は県内では類例がほとんどなく、中世の農耕具に対する価値観を探る貴重な資料として注目される(写真2)。

龍泉窯系青磁が多く見られ、隣接する石坂遺跡からは、越州窯系青磁が出土するなど興味深い。

特徴

掘立柱建物跡は豪族クラスの居館跡が想定され、このような規模の建物跡の出土例は県内でもまれである。また、農具を古銭や磁器などと一緒に埋納した遺構の発見も県内ではほとんど例がない。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003「山ノ脇遺跡・西原遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』58

(上之園建二)



写真1 深浦式土器出土状況



写真2 農具埋納土坑



写真3 掘立柱建物跡全景写真